



消防だより

有田川町消防本部 052-59950
吉備金屋消防署 052-59950
清水消防署 025-1243

今年の出動等(累計)

火災	6件
救助急	526件
救助	4件

(平成25年5月31日現在)

熱中症

熱中症は、屋内・屋外を問わず高温や多湿などの環境下で起こる身体の機能障害や体温調節機能障害による様々な症状です。作業中や運動中に起こりやすく、幼児や高齢者は高温環境下にいるだけで起こる場合もあります。熱中症は、症状により次のように分けられます。

■Ⅰ度(現場での応急手当で対応できる軽症)

めまい、数秒間程度の失神。手足や腹筋などに痛みを伴った痙攣(こむらがり)など。大量の発汗。

■Ⅱ度(病院への搬送を必要とする中等症)

頭痛、気分不快、脱力感、倦怠感、吐き気、嘔吐。

■Ⅲ度(入院して集中治療の必要性がある重症)

興奮や昏睡などの意識障害、全身の痙攣、手足の運動障害、高温(体

に触ると熱い)。※この状態では、極めて緊急の対応が必要です。

このような症状が現れたら、すぐに木陰、クーラーの効いている所などに涼しいところへ連れて行き、安静を保ちながら衣服を緩めたり必要によっては脱がせます。意識があり、嘔吐などがなければスポーツドリンクなどを飲ませ水分を摂らせませます。体温が高いときには、全身を水で濡らしたりアイスパックなどで冷却をします。(氷等で急激に冷却すると体温が下がりすぎるので注意が必要です。

熱中症を防ぐために、なるべく暑い場所を避け、服装や室内の風とおしを工夫し、暑

さに備えた体づくりやこまめに水分を補給するなど日常生活における予防がとでも重要です。



夏だ！水難事故を防ごう

梅雨が明け本格的な夏の暑さがやってくるこれから季節は、海・河川・プールなどで、水による事故が発生する時期でもあります。水の事故を防ぐために、次のような点に注意して、楽しい夏を過ごしましょう。



水による事故を防ぐポイント

- ・小さい子供からは目を離さないようにし、遊泳中や水遊び中は大人が付き添いましょう。
- ・気象状況に注意を払い、天候の変化に応じ遊泳や川岸等でのキャンプを中止するといったことも配慮しましょう。
- ・飲酒後や体調が優れないときは、遊泳を行わないようにしましょう。

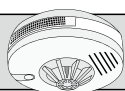
花火の事故、気をつけて！

夏の楽しい遊びのひとつとして、おもちゃ花火が親しまれています。しかし、「おもちゃ」といっても原料は火薬であり危険が伴います。花火による事故をなくすために、「使用上の説明書」をよく読んで正しく取り扱います。また、花火で遊ぶ時は、必ず水の入ったバケツを用意し、風の強いときには遊ばないようにしましょう。



たき火の不始末、注意！

最近、たき火の不始末が原因で火災が数件発生しています。特に河川や田畑でのたき火は気象の状況により非常に危険です。「防火の詩」つけた手が、消すまで責任「火の始末」を合言葉に、火災のない住みよい町づくりにご協力ください。



あなたの命と財産を守るため 付いていますか？ 住宅用火災警報器
「法律で全ての住宅に火災警報器の設置が義務付けられています。」